<table>
<tr>
<td>えんぽとたんぽの始発駅
里山ビオトープ二俣瀬</td>
<td>会　報　第26号</td>
<td>２００３年9月２５日
里山ビオトープ二俣瀬をつくる会
編集責任者：西原　一誠</td>
</tr>
</table>

1. 活動報告（事務局　記）

－　８月２３日（木）蕎麦の種補蒔き、草原ゾーンの整備
－　９月７日（日）炎天下の中、約２０人の参加でしたが、頑張って草取りを行いました。
－　９月１６日（火）やまぐちパートナシップ広域会議参加　　原田副会長、原田事務局長
－　９月１８日（木）上宇部ふれあいセンターの成人学級の 27 名の方がビオトープ研修に来られました。田村会員、藤村会員、原田会員により、ご案内、説明をしました。ご訪問ありがとうございました。
－　９月２０日（土）作業は農繁期のため 12 名参加で刈った草の整理と自然観察隊のための通路事前調査でした。
－　９月２０日（土）今回の観察隊は隊員 11 名　父兄５名　会員講師７名の参加で、どんぐり関係の勉強会を行い、集めたどんぐりでコマを作ったりしました。

2. 今後の予定（事務局　記）

◎　見学者
－　１１月　１日（土）厚東川水系、森、水、海を考える会８０名程度予定
－　１２月１８日（木）宇部西高等学校　伊藤先生他生徒３０名予定
◎　行事
－　９月２７日（土）第三回(最終回)山口県環境生活部との協働事業懇談会
－　１０月５日（日）作業
－　１０月１１日（土）桂谷ランプの宿にて「里山フォーラム」　西原会員、原田事務局長が参加
－　１０月１８日（土）作業と、里山自然観察隊（秋の草花）

３．会員の声

二俣瀬ビオトープの観察隊に参加して　（中本亜矢子　記）

常々、「子ども達と里山で遊ぶ機会を持ちたい」と思っていた私は、月に一度の里山観察隊での活動をとても楽しみにしております。

今の子ども達は本当に忙しくて、なかなか自由な時間が取れません。昨年より学校は週５日制になっていますが、それでゆとりができたかというと、そうとも言えない状況です。平日の放課後は、お稽古事と少年クラブでめいっぱい詰まっているし、土日はまたまた少年クラブや子ども会行事でぎっしり。予定と予定のあいだのわずかな空き時間をぬって遊ぶ子ども達を見ていると、複雑な気持ちになります。

そんな中でも、自然観察隊には何より優先して参加して、皆勤賞を取るつもりでいたのに、７月は子ども会の宿泊研修、８月は少年クラブの唐津遠征と重なり、残念ながら参加できませんでした。

９月の自然観察隊に久しぶりに参加できたのですが、これが大変楽しかったです。今回のテーマは、「里山の樹木」ということで、なかでも　ぶなやくぬぎ・しいなどのどんぐりのなる木についての説明と、どんぐりの種類・見分け方について詳しく教えていただきました。

説明を聞いたあとは、さっそくビオトープ周辺のどんぐりのなる木を探して歩きました。予め会員の方が探していてくださった木の下には、ちいさなどんぐりがたくさん落ちていて、みんなで拾って食べたりしました。栗とピーナツの中間のような味でした。炒って食べたら香ばしくておいしくなるそうです。

それから、森に入ってみましょうということで、ビオトープの奥の山に踏み入りました。狭くて足場も悪い道でしたが、昔の殿様街道だったそうです。

やぶ蚊に狙われて大変な思いをしましたが、原田さんの案内で、年輪を重ねた立派なカシの木？や、その木の根元にある狐のすみかだったらしい祠や、ウサギ穴など見て歩きました。春にたけのこ堀をした竹やぶの中にも入りました。太くて立派な孟宗竹が見渡す限り続く竹やぶは、ちょっと幻想的な雰囲気さえ感じました。

市民センターに帰って、どんぐりでこまを作って遊びました。子ども達は、こま作りとこま回しに夢中になって、楽しそうでした。

いつもは細切れの時間をテレビゲームで過ごしてしまうことが多いので、親子ともども、観察隊ではとても貴重な時間を過ごさせていただいています。時間に追われてゆとりのない日常の中で、見失っていた何か。それをいつも思い出させてくれるような気がします。

来月は稲刈りがあるということで、子ども達も張り切っていました。ぜひ、朝から参加したいと思っています。今年は冷夏で米の生育が良くないと聞きますが、ビオトープのお米はどうなんでしょうね！？

４．ビオトープ関連　(連載ビオトープ近辺の案内)　事務局　原田満洲夫

ビオトープの在る二俣瀬の紹介が吉富壮介さんの逝去により途絶えては申し訳なく引き続いて事務局より連載で紹介したい。参考資料は基本的には児玉一雄先生の“郷土二俣瀬”から抜粋する

前回田村会員が“あたみの駅は車地だったのでは？”を掲載されたので今回は車地八景のうちひとつを紐解いてみよう。

「小段の帰帆」　小段とは、しょんがせという中ノ島の南側の急な瀬辺りをいうと推定される。

大正時代は厚東川は瀬戸内海に出るまで堰やダムも無く車地や木田から船で新川や防府のほうまで船で荷物を運搬していたといわれている。木田側と車地側に船着場跡があり現在も標識が二俣瀬昭和会の皆さんで管理されている。行きは流れに沿って楽であるが帰路は帆を張って帰ってくる。夕日を受けて船の帆を車地側から見ると本当に美しいものであったと想像される。現在この方向で見ると２号線を大型トラックが煙を吐いて騒音をなびかせて風流であったものではない。

車地八景は他に　**日吉の晴嵐、寺山の秋月、荒滝の暮雪、横山の落雁。光安の晩鐘、木譚の夕照。須田の夜雨**

とあるが次回からも一つ一つ説明しよう。

５．来訪者の声　（東屋のノートより一部抜粋）

一　８月２５日　今日岡ノ辻からメダカを取りに来ました。獲っていたらいたらいつの間にか網に穴が開いていました。

（西岐波区岡ノ辻　田村美穂。田村尚也）

※美穂ちゃん、尚也くん本当は獲ってはいけないのよ　穴が開いてたから許してあげる

一　８月２７日　インターネットでこの地を知りやってきました。小川の中のエビやメダカ、オニヤンマ、糸トンボ等久々に見ることが出来ました。胴が黄色のイトが居ました。初めて見ました。なんて？名前だろうか。（下関市　岡本裕之）

※この件ホームページでキイトトンボと掲示しました

一　８月３１日　本日２度目の来観。やっぱり空気も美味しいし景色もすごくキレイ！　又来るけー。（小野田市　山本佳澄）

※　平成１４年5月１２日に一度来られて居ます

一　９月　７日　自然があってとてもよい感じですね。草刈のため水が濁って中が良く見えませんでしたけど、あまり人工的にならないほうが良いと思います。昔の日本の田舎の姿がそのままでとても懐かしく感じます。又の機会があれば近くですので参ります。孫と４人で。　(宇部市　松本)

※　日曜日の湿地帯作業の後でしたのでにごっていたのでしょう。

一　９月１４日　カエルつりをしてすぐにげました。　(出口博光)

６．会よりの連絡事項

今回はありません。

７．編集後記

里山自然観察隊も９月で第６回目を終えた。動く動物（昆虫、魚、水生昆虫など）は、一旦捕まえて観察するので人気が高い。しかし、動かない植物の観察はあまり人気がない。じっくり図鑑でも開いて観察すればいろんな発見があるのだが、何しろじっくり見ることが苦手のようだ。興味がわけばまた違ってくるのだろうが、如何に注目させるかは指導員の力量によるのだろう。指導員も勉強だ。観察隊の子供たちには、里山の生活の一部である田植え・ソバ植えにも何人かが参加した。今後の稲刈り・ソバ刈取りにも参加してもらい、１２月の餅つき・ソバ打ち・木炭作りで楽しんでもらいたい。里山の生活を知ることで、季節を感じ、自然の有難さが分かれば、自然環境に対する考え方も自ずと変ってくるだろう。私たち会員もそれを願ってビオトープの維持管理に努めている。　**（西原　一誠　記）**